

「知事とのフレッシュトーク」(平成23年11月22日実施)の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成23年11月22日(火)に青森市の県立青森西高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

青森西高等学校の概要

昭和38年に普通科女子高校として創立。平成5年に男女共学の人文科が新設され、平成8年には普通科も男女共学となった。創立50周年を迎える平成24年度からは全ての学科が普通科の編成になる予定。「和」を校訓とし、教育目標に「自主」「創造」「協調」の3つを掲げ、人間力の育成を図る「青西 夢・創造プロジェクト」に取り組んでいる。

普通科674名、人文科39名の713名の生徒が学んでいる。(平成23年5月1日現在)

◆知事入場◆

吹奏楽部・合唱部による「サウンドオブミュージック」演奏で出迎え。



◆開催◆

校長歓迎のこたば

三村知事さん、ようこそお出でくださいました。このようにフレッシュトークを開催できることを、大変嬉しく思います。心から感謝申し上げます。

本校では体験活動を通して、郷土を愛する心、青森の未来を創造する力を育んでもらう

「人間力」を高める活動を展開しています。今日は青森県の先頭に立って健闘しておられる知事さんの熱い思いを直接伺うことができる機会でもあります。この機会を通して、西高生一人ひとりが学ぶ意欲を高め、自分の目標に向かって頑張る力を持てるよう期待しています。

今後の知事さんのますますのご活躍をご祈念申し上げ、校長としての挨拶とします。

知事あいさつ

皆さんこんにちは。2年生、3年生の皆さんは、大学進学や就職など、それぞれの人生について、今いろいろなことを考えていると思います。そして1年生の皆さんは、まだ先だ、あと2年だ、と思っていると、あっという間に3年間が過ぎてしまいますよ。私の人生の中で振り返ってみて、高校時代は、いろいろな人との出会いがあり、将来も付き合える友達ができたり、未来に向かって何をしようか燃えていた頃だったと思います。

今回、フレッシュトークということで訪問させていただきましたが、私は小学校、中学校、高校、あるいは職域、職場、市町村など、いろいろなところに出かけて、今の青森をどう思っているのか、今の青森を自分達でこうしていきたい、こんないいアイデアがあります、これで青森を元気にしましょうといったお話を伺っています。私にとって136万人の青森県民一人ひとりが、青森県を守っていく、あるいは作っていく大切なパートナーだと思っています。特に高校生は、社会に出ていく、あるいは大学生として未来へ大きく育っていく、一番大事な世代だと思っています。

最初に吹奏楽部と合唱部の皆さんによる「サウンドオブミュージック」で入場しましたが、私が中学生の時に、この映画を見に行って感動した音楽の素晴らしさを思い出しました。そして高校生という世代が持つすごい力、素晴らしさを改めて感じています。

今日は皆さんと思いきり本音でトークをしたいと思いますので、よろしくお願いします。

◆生徒による学校紹介◆

紹介者2名（2年 女子）

青森西高校は昭和38年に普通科女子高校として新設され、女子教育と文武両道の優れた学校として県内にその地位を築きました。特に明朗旗（青森県高等学校総合体育大会女子総合優勝）を13連覇した時代は、「女子スポーツは青森西高校」と言われていました。平成5年に男女共学の「人文科」が新設され、平成8年からは男女共学校としてスタートしました。今年度をもって「人文科」は幕を閉じることになり、来年度からは普通科6クラスでスタートします。

本校は平成10年12月に新校舎が完成し、建物は青森ヒバをふんだんに使った、暖か

みのある雰囲気の特徴です。シンデレラ階段と呼ばれる3階までの木の香り漂う階段があるほか、中庭は全面がレンガ敷で、文化祭には模擬店が出たり、天気の良い日は昼食を取ることができます。

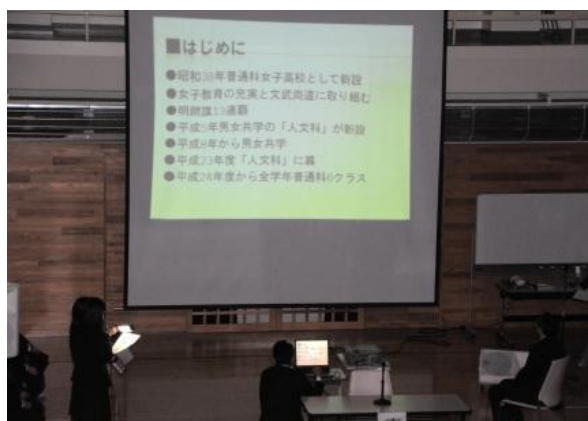
本校の校訓は『和』となっていて、私達は、「自主」自立の精神を養い、主体的に行動できる実践的な人間になること、「創造」真理を愛し、時代の変化に応じて新しいことにチャレンジする創造性豊かな人間になること、「協調」友情を高め、礼節を重んじる協調性豊かな人間になること、を目指し日々の学校生活を送っています。青森西高校は確かな学力と、自分達の進路を達成すること、勉強はもちろんですが、部活動の活性化、文化祭や運動会といった学校行事のバランスのとれた学校、そして地域に愛される学校、地域との繋がりを活かした実践ができる学校を目指しています。

進学状況は、昨年度の実績になりますが、進学75%、就職14%となっていて、弘前大学4名、青森公立大学6名、青森県立保健大学2名等、国公立大学には毎年20名程度が進学しています。

本校の部活動は、運動部、文化部とも活発な活動がなされています。今年度青森県で行われた北東北インターハイでは、テニス部の女子団体が県代表として出場しています。また、アーチェリー部は、県春季大会優勝、新人戦優勝、先日行われた東北大会では3位となっています。

本校の特徴的な取組として、知力はもちろん、気力、体力、実践力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等、人間としての総合的な力となる「人間力」を身につけるための「青西 夢・創造プロジェクト」に取り組んでいます。地域の方々や企業の方々と協働し、ダイナミックな活動を展開しています。一昨年は新幹線開業を控え、新青森駅に一番近い高校として、「新幹線プロジェクト」を立ち上げました。新青森駅での定点観察、弘前公園の桜まつり等、県内観光地に出向いて、青森県についてのアンケート調査を実施する等、フィールドワークを中心に活動し、青森の歴史、味、人、良さを再確認しました。今年度3年目を迎える「青森西観光大使」では、修学旅行時に1年目は広島で、昨年度は京都で観光大使の取組を行いました。青森県のPR、郷土青森の理解・発信・創造に繋がりたいと思っています。

「高校生おもてなしプロジェクト」では、昨年12月4日の新幹線開業日に、私達高校生も青森県を全国に向け発信できればと考え、本校の呼びかけで、県内各地域の高校生と一緒にこの企画を立ち上げました。八戸東高校、弘前実業高校、五所川原農林高校、七戸高校、金木高校、むつ工業高校、大間高校の8校で組織されています。開業日には県内各地でおもてなし活動を展開し、私達が作った「発信！つながる青森マップ」を観光客の方々



に配りました。今年度は大間町の「超マグロ祭」に出陣し、フェリー埠頭での大漁旗でお出迎えなどの活動を行ってきました。このプロジェクトは今後も継続し、高校生だからできるおもてなしを展開していければと思っています。

知事

コンパクトに、すごくわかりやすくまとめてくれてありがとう。お二人のプレゼンテーション能力が大変よく伝わりました。

また、修学旅行先でも青森県のキャンペーンをしてくれて、大変ありがとうございます。

◆生徒と知事との意見交換◆

発言者 1（3年 女子）

私は青森県の良いところを全国に発信し、たくさんの人に青森を訪れてほしいと思っています。例えば新青森駅周辺に魅力あるオブジェやお店を建てる等、青森の玄関である駅周辺の活性化が必要だと考えています。若い感性で活気のあるまちづくりをしてほしいです。

生徒会長をしていたことから、学校行事の運営に取り組んでいたのも、自分の企画力と構想力を活かした仕事に就くことを希望しています。若い人が活躍することができるまちづくりが必要だと思いますが、知事はどのようにお考えでしょうか。

知事

新青森駅周辺の話ですが、青森市では、しっかりとした駅前づくりという考えがあるようで、乱開発に繋がらないように法律で網がかかっているため、思い切ったお店の展開がしづらい状況にあります。新青森駅に降りた時に雪が降っていると、ムードはありますが、もう少し駅前に何かあってほしいのは、私達も同じ気持ちです。でも、まちづくりを考えた時に、開業当初、何もなかった状況の中で、これから皆さんが新しい感性でどんどんまちづくりの提案をしていくのも、逆にいいことなのかなと思います。それぞれ駅がある市や町の考えがすごく大事なため、新しい方向性が出てきた場合には、県としてしっかりと応援したいと思っています。

大学ではどのようなことを勉強したいですか。

発言者 1

私の進学する大学は、文化を勉強するところで、直接まちづくりには関わらないのですが、将来的には自分の企画力や構想力を活かしてまちづくりに関わっていきたいと思っています。

先ほど、まちづくりに網がかかっているとおっしゃっていましたが、その網を取ることはできないのですか。

知事

青森市で決断をすれば、網を取ることはできると思います。ただ、青森市としては、乱開発されていろいろな建物が中途半端にできるよりも、将来をよく考えて、しっかりとした方向性でまちづくりをしたいということだと思います。むしろ、新青森駅周辺が、これからじつくりと、どのようにまちづくりをするか皆さんと考えていくことができる場所だと思えば、ものすごく未来に発展していけると思います。新青森に降りたらすごいと思える、若い人達が新しいまちづくりに頑張っていたという地域おこしができたらいいなと思います。

全国の知事会というのがあり、その中で日本の次世代のリーダーを養成していこうと、経団連と一緒に始めた「日本の次世代リーダー養成塾」という試みがあります。青森からも多くの高校生が毎年参加してくれていて、将来の夢についてトークをしながら、メンバーの中から将来の総理大臣を投票したりします。第7回目の養成塾では、青森の高校生が日本の将来の総理大臣に選ばれて、皆で話し合った政策を発表したりしました。3年生は卒業してしまうので参加できませんが、2年生、1年生で、10日間位、この塾に参加したいと思う方がいたら、相談してみてください。

企画政策部次長

知事がお話しした、「日本の次世代リーダー養成塾」というのは、夏に2週間ほど高校生が九州に集まり、例えばマレーシアの元首相といった外国からの講師や、経団連の会長さん、大学の先生など、いろいろな方が講師を務めてくださって、合宿しながらグループミーティングをしたり、一緒に料理を作ったりするものです。少し自己負担がありますが、4月か5月になれば学校に案内しますので、今1年生、2年生の方は積極的に手を挙げていただければと思います。

知事

青森県は女性のパワーが強く、実は農業などの場面では、新しい農業、6次産業化（※）と言っていますが、加工や流通といった分野で女性や若い人達がどんどんアイデアを出して頑張ってくれています。青森県は皆さんのような、前に向かって一生懸命頑張る人達が、これからの青森県を支えていてくれると思います。（※6次産業化：農林水産物の生産だけではなく、加工などの第2次産業、流通・販売などの第3次産業を組み合わせ、高い付加価値や新たな関連産業の創出を図ること。）

そして、黒石のつゆ焼きそば、八戸のせんべい汁、十和田のバラ焼き、大湊の海軍コロッケ、青森の生姜味噌おでんなどのB級グルメによる地域おこしが始まっていますが、若

い人達を中心となって、いろいろと地域おこしを頑張ってくれています。皆さんも、地域にあるそれぞれの面白い素材を使った地域おこしに取り組んでくれたら嬉しく思います。

将来の夢は何ですか。

発言者 1

将来の夢は、イベントプランナーやまちづくりに携われるような仕事をしたいと思っています。

知事

将来県外に就職しても、青森を忘れないで、応援してくれたらありがたく思います。

発言者 2（3年 女子）

私の将来の夢は、目の前の人を笑顔にできるような社会福祉士になることです。そのためには、現在の福祉を知ることが必要だと考え、様々な介護の実習に参加してきました。しかし、そこにあったものは、老老介護、ヘルパーの知識にむらがあること、一人暮らしの高齢者の生活等といった、哀しい現実でした。青森県で暮らす全ての方々が笑顔で生活してくためにも、早急に対応しなければならない問題が多々あります。

このような福祉問題について、知事はどのようにお考えでしょうか。

知事

私は35歳の時に百石というところの町長になりました。町長になって、町の100名の方に集まってもらい、地域づくりについて話し合いをしました。

また、当時はゴールドプランという戦略があり、中学校の学区単位で、高齢者や障害のある人達をどのようにケアしていくか計画を立てることもしました。当時、保健師さんに付き添って、家庭を訪ねて歩きましたが、厳しい現実を感じました。ある家庭では、おばあちゃんとおじいちゃんがお互いに面倒みていて、「町の方でも時々こうしてケアに来るけれど、本当に自分達二人きりになってしまった。これからどうしたらいいんだろう。」と言っていたり、またある家庭では、おばあちゃんが1人でご飯を食べていて、そのおばあちゃんは、「具合が悪くて死にたいと思っていても、お腹がすいてしまって一人でご飯を食べているんだ。」と言っていました。すごく悲しいことです。

その時に思ったのは、「自分の本当の仕事は何か。」ということです。やはりそれは、命を守ることですし、誰もが自分の生まれた、嫁いできた、仕事で来た町で命を全うできる、ここで生きられて良かった、最後まで大切な人生を送ることができる、そんな町を作りたいと思いました。

そして、20年位前になりますが、町長をしていた時に、「保健・医療・福祉包括ケアシステム」というものをスタートさせました。そこで考えたこと、思ったことは、確かに倒

れている人もケアする必要がありますが、元気づくり、健康づくりもしていかなければいけない。保健・医療・福祉、要するに「保健」では健康づくりをして、元気な人はずっと元気でいてほしい。その仕組みを作りたい。「医療」では病気になった時に、きちんとケア出来る仕組みを作ってあげたい。そして「福祉」では寝たきりの人がいたら、一生懸命お世話をして、少しでも起き上がれるようにしてあげたい。このように保健・医療・福祉を一体化して、一人ひとりの方に確実にこの3つの角度から光をあてる、そのようなまちづくりをしたいと決意しました。

町立病院があったので、保健師さんや看護師さん、老人クラブの方、あるいは障害者団体の方など、いろいろな方に集まってもらい、百石における保健・医療・福祉包括ケアシステムの推進プログラムを作りました。簡単に言うと、月曜日は午前中にヘルパーさんが、午後には訪問看護師さんが来て、火曜日には午前中にドクターが、午後にはまたヘルパーさんが来る。水曜日は午前中にリハビリの先生が、午後にはまた訪問看護師さんが来るという感じで、一人ひとりにメニューを作ってあげて、確実にケアをする。しかも24時間の体制を整える。そのような仕組みを作らなければいけないと思い、予算も人も投入しました。

皆にもおじいちゃん、おばあちゃんがいて、グループホームや施設のような別の所にいるかもしれない。あるいは家の中にいるけれども、皆ですごく苦勞して介護しているかもしれない。そのような、なかなか外に出られない状態でも、保健師さんが地域を回って、一人ひとりの状態をしっかりと把握してもらい、保健・医療・福祉のチームが集まった会議の中



で保健のチームとして、医療のチームとして、福祉のチームとしてどのようにケアをするかメニューを作ってあげて、それを実行する。ここで生まれてよかった、ここで人生を送れてよかったと思ってもらう仕組みづくりを知事になってからも進めています。

この保健・医療・福祉包括ケアシステムを県内の全ての市町村に広めていくのが、私の夢です。知事として、りんごのほっぴを着てセールスをしたり、企業誘致をして皆さんの働く場を作る仕事もしていますが、一方で、ものすごく地味かもしれませんが、保健師さんをどんどん養成して、将来お医者さんになるために医学部に進む人をどんどん増やして、この包括ケアを進めるための仕事もしています。市町村毎に取り組むので、進み方に濃淡はありますが、県民一人ひとりがこの青森で生きられて良かったと最後に思ってもらえるように頑張っています。

将来そのような仕事に就いてくれるということですが、どのような決意ですか。

発言者 2

私の親友がそのような福祉のことで、家族の中で問題が起きてしまい、自分の将来の夢を諦めたので、私はそのような方を二度と出さないために、社会福祉士になることを決めました。そしてこの包括ケアシステムを使えば、そのような方々も十分幸せになれると感じ、家族も利用者の方も幸せになっていけると思いました。

知事

私もその気持で20年間取り組んできました。もちろん、青森県の経済や働く場のこともあります。命を守りたいというのが、町長時代からの強い思いです。将来、ぜひ私達が進めているこの包括ケアシステムのメンバーに入ってくれたら嬉しいです。資格もいろいろと取らないといけないので、頑張ってください。

この包括ケアに取り組んでいる方々は、いつも「こんなに感謝される仕事はないです。」と言っています。例えば、病院であれば患者さんが治った時に、「ありがとう。」と言ってくれる。福祉の場面でも手を合わせて「ありがとう。」と言って感謝してくれる。この保健・医療・福祉に携わっている方々がおっしゃるのは、自分が一生懸命働けば働くほど、感謝の気持ちをいただける、素晴らしい仕事だ、だから生涯頑張りたい、そのようなことを言ってくれています。あなたもこの「ありがとう。」という言葉を生涯でたくさん貰える仕事を頑張ってください。期待しています。

発言者 3（2年 女子）

私は青森県が大好きです。食べ物がおいしく、何より人が温かいからです。しかし、県外の人達には青森県の良さは伝わっていないと思います。私達は修学旅行の際に、青森を知ってもらおう観光大使に取り組んでいます。今年も来月の修学旅行に高校生おもてなしプロジェクトで制作している「発信！つながる青森マップ」を配りながら、青森をPRしてきたいと思います。高校生でなければできないことをこれからも続けていきたいと思っています。

知事にとって青森県の高校生に望むことは何ですか。

知事

青森県の高校生に望むことは、いつも朗らかで、笑顔でいてほしいです。そのためには、野菜など青森の本当においしい食べものをたくさん食べて、健康でいてほしいというのが一番の願いです。

特に好きな食べものは何ですか。

発言者 3

さつまいもとかぼちゃです。

知事

健康的でいいと思います。今、青森県では、鹿児島と「つなグッド！青森・鹿児島」という運動をしています。青森県の地図をひっくり返すと、ほとんど鹿児島県と同じような形になります。それがおもしろいのではないかということになり、日本を南と北から元気にしようということになりました。りんごとさつまいものコラボレーションをしようとか、縄文のことをやろうとか、新幹線がお互いに開業したので、お互いにフェアをやろうということになりました。

かぼちゃとさつまいもはすごく健康にいいので、皆さんも食べてください。あと、冬は小松菜や寒じめのほうれん草もおいしいですし、やはり青森にはたくさんおいしい食べものがあるので、しっかりとそれらを食べていただけると嬉しいです。

海の食べものでは何が好きですか。

発言者3

エビとサーモンです。

知事

青森県では、下北の大畑地区でおいしいサーモンを作っていて特産になっていますし、エビは西海岸に行くとすごく美味しいものがありますので、健康のためにも地産地消ということで青森のものを食べていただきたいと思います。

青森の宣伝をどんどんした方がいいという話でしたが、青森県では「まるごとあおもり情報発信チーム」というのがあり、県外のテレビ局や新聞社など、いろいろなところに行って、青森の情報発信をしていて、「はなまるマーケット」や「朝だ！生です旅サラダ」といった朝の情報番組などで取り上げられたり、「秘密のケンミンSHOW」で紹介されたり、東京の雑誌や新聞で紹介されたりしていて、今年、広告換算で約63億円の効果があったと言われています。

決め手君も一緒に行って、青森県のことをPRしていて、子ども達にもすごい人気がありますし、最近では台湾にも行っています。12体ある決め手君が、あちらこちらで今日も青森県のキャンペーンをしてくれています。

また、県庁には県民局といって、知事の代わりに県内の各地域でいろいろな仕事をしてくれるところがあります。ここ東青地域の県民局長さんは、これまでも青森の情報発信を手掛けてきた方です。

東青地域県民局長

皆さん、こんにちは。皆さんが修学旅行の時に青森県をPRする際の参考になればと思いますが、地域のものを売りこんでいくためには、まずその地域のことをしっかりと知る

必要があります。そのためには、自分達の地域をよく調べ、紙の情報だけではなく、自分で街角を歩いてみるなど、その現場に行くことが大事です。

青森県の情報発信という部分では、皆さんが取り組んできたこと、これからやろうとしている取組がすごく大事なことで、新幹線が開業した時に皆さんが行ったおもてなしの取組も、それを実践してくれたことで、他県の方はまた青森に来たいと思う気持ちになります。皆さんが取り組んでくれているプロジェクトは、私も感心していますので、今後も継続していただければと思います。

知事

青森のことをたくさん知ってくれていると思いますが、青森県のことで一番PRしたいのは、どのようなことで、どんなPRをしたいですか。

発言者3

人が温かいところと、ねぶたや特産品等で青森にしかないものがたくさんあることです。

知事

青森県では、これからパワースポットやミステリーゾーンをキャンペーンしていきます。例えば、新郷村のキリストの墓や三厩にある階段国道など、青森にあるいろいろなミステリーゾーン、パワースポットも新しい観光の切り口になってきます。観光大使として、青森のいろいろなものを宣伝してください。よろしくお願いします。

将来の夢は何ですか。

発言者3

小学校の先生になることです。

知事

小学校の先生になるためには何が大事でしょうか。簡単です。子どもが好きなことです。試験も大事ですが、子どもが好きだったらすごくいいと思います。ぜひ、子どもが好きな優しい先生になってください。

発言者4（2年 女子）

私は大好きな青森県で社会の先生になり、好きな現代社会、歴史を教えたいと思っています。社会の授業の中で、りんごの生産量を表すグラフを見ると、青森県が52.7%を占め全国1位、実際の数字を見て青森県はすごいと思いました。また三内丸山遺跡という素晴らしい遺跡があることにも感動しています。その全国にも自慢できる材料があるにもかかわらず、我々県民の関心は高くないと思います。私は小学校時代、りんごを育てる活

動をしましたが、りんごにとっても愛着を持ち、育てる大切さを知り、育てる楽しさを知りました。

青森のモノ、ヒト、コトに県民が触れあう機会が必要だと考えています。

知事

今、りんごの話をしてくれました。青森県のリんごの生産量は全国の約半分です。青森県にとって、りんごはトップブランドです。世界中、特にアジアを中心として、青森のリんごは輸出されています。そして、農産物の輸出という突破口を開き、世界に向けて売り出したのは我々青森県です。りんご、長芋、今では中国向けのナマコであるとか、ヨーロッパ向けのホタテであるとか、たくさんありますが、りんごというトップブランドがあるから、セールスにどんどん行くことができます。世界一のりんごを作っているのが青森県です。先週は沖縄のイオン34店舗の全店フェアや九州全店舗のフェアに行ってきた、今週は名古屋・東海地区のイオンのフェアに行きます。そして来月は輸出の仕事で台湾と香港に行きますが、どの場面でも青森のリんごを、今、全国、世界の方々が知ってくれています。青森のリんごがおいしいので、すごく評価されていて、箱に「青森」と書いてあるだけで中国の人達も台湾の人達もおいしいと言ってくれます。それくらい実は青森の食品、青森の産品は有名です。例えば熊谷喜八さんという料理人は、青森県内を5万キロ歩いて、青森の食材をたくさん探して、それを自分自身の料理の本にしてくれました。このように青森には素晴らしい食材がたくさんあります。

でも意外なことに、青森県民がすごく安全安心でおいしいものを作っている、食べているということを意識していません。そこで私達は地産地消の運動として、青森産品をどんどんキャンペーンして取り扱ってくれるお店や、青森産品愛用運動の店などをどんどん県内で増やし、青森産品を地元でも知ってもらう取組をしています。

県では「攻めの農林水産業」という取組を進めていますが、取引先で「青森産品の特徴は何ですか。」と聞かれると、私はいつも「正直です。青森の人はこつこつと生真面目に物事に取り組めます。」と言っています。農業の場面でも、漁業の場面でも、本当にいい物を一生懸命真面目に作るのが青森の人です。特徴を聞かれたら、「青森の正直です。こつこつ

生真面目に作った青森の正直な産品を全国の皆さんにお届けにあがりました。」とあえて言います。でも、本当に青森の人がもっと青森産品の素晴らしさを知ってくれて、食べてくれて、応援してくれたら、青森県そのものがもっと元気が出ると思います。そして、実は青森県民から「いいな。おいしいな。」と言われたものでないと、全国や世界では通用しな



いんです。青森の人は本当においしいものをよくわかっているの、地産地消運動を通じて青森のものをどんどん食べてくれて、青森のものはいいな、素晴らしいなということを、高校生の皆さんも応援してくれたら、すごく嬉しく思います。

私も引き続き、青森の正直な、本当に生真面目なおいしいものをどんどん宣伝していきたいと思いますので、今度一緒に観光大使で青森県のものを宣伝しましょう。

将来の夢は社会の先生ということですが、社会の先生になるために大事なことは何だと思いますか。

発言者 4

子どもが好きなことです。

知事

子供が好きなこともそうですが、社会の先生になるとすれば、やはり自分も学力向上しなければいけないと思います。まじめな話ですが、新聞とテレビだけではなく、いろいろな雑誌も読んでみたり、活字ジャンル、映像ジャンル、ネットジャンルなど、いろいろなジャンルのことをいつでも気にとめて、今はどんどん知識として入る時期なので、勉強してください。今勉強していること、どんどん取り入れていることが、将来絶対に役に立つと思います。頑張ってください。

発言者 5（1年 女子）

私は岩手県立高田高校を受験しました。しかし東日本大震災が起こり、入学をあきらめざるを得ない状況になってしまいました。

今回の震災で私が感じたのは、「青森県の防災意識の低さ」です。受験中、震災の余震を経験した時、陸前高田市はサイレンを鳴らし、放送で津波等の警戒を呼び掛けていました。しかし青森市で地震が起こった時は、避難の呼びかけがあまり届かず、停電の影響もあって状況のわからないままパニックに陥りかけてしまいました。いくら余震とはいえ、これでは助かるものも助からないと感じました。東日本大震災でたくさんの友人や家族を失った人がいます。今回は岩手、宮城、福島が大きな被害を受けましたが、次はどこで地震が起こるのかわかりません。

震災によって、志望校に行けなくなったり、転校せざるを得なくなってしまった人はたくさんいます。同じ悲劇を繰り返さないためにも、防災意識を高め、もしもの時の対応や備えを県全体で強化してほしいと思います。

知事

青森に来てくれてありがとう。今回の東日本大震災は、青森県にとっても本当に厳しいものでした。当日は議会の最中だったので県庁にいました。あの揺れで、音信不通の状態

になりましたが、八戸に設置したカメラが生き残っていて、全国放送に津波が押し寄せてきて、人が逃げたりしている姿が映っていて、私の実家がある百石はどうなったんだろう、子ども、親父、お袋、家内はどうなったんだろうと、すごく心配でした。でも、知事としての仕事をして、足りない物資や段取りについて自衛隊と打ち合わせをしながら、八戸も百石も三沢も相当被害が出ているのではないかと思いながら、指揮を執っていました。

あなたも陸前高田に居て、避難したりとか大変でしたね。よく頑張った。こうして今日ここに居てくれてありがとう。

次の日になって状況が次第にわかってきて、青森県でも3名の方が亡くなり、行方不明の方が1人いることがわかりました。その後、百石に行った時に、皆が地震が起きてからすぐに崖の上に逃げてくれたおかげで百石では誰も犠牲者が出なかったことがわかりました。というのは、百石では過去に大きな地震で何百人もの犠牲者が出た経験があったため、小学生の頃から「地震、海鳴り、ほら津波。」という話を教わります。このため、津波常襲地帯では、大きな地震が起きたらとにかく高い所に逃げる訓練ができていたため、百石では犠牲者を一人も出さないで逃げることができました。もちろん、家は流されたし、船は壊れるし、工業団地も水浸しになりましたが、とにかく逃げました。

青森市に来て、いろいろ感じていると思いますが、ここは雪がものすごく降るところで、雪が降ること自体が毎年災害のようなものなのですが、湾内にあるので津波が入ってくることもないし、河川はありますが大洪水にならないように整備もされています。青森市は、ここ数十年で台風以外に大きな自然災害というものをほとんど受けてないのだと思います。それで、皆がのんびりしていることにすごく心配になって、こんなことでいいのかなと感じたのだと思います。

県としても、今、自主防災組織といって、町内の人達が皆で支え合って逃げる仕組みだとか、あるいは県の防災計画というものを市町村と一緒に作り直す作業を進めていて、これまでの私の経験も踏まえてしっかりと防災についても取り組んでいきます。

青森に来てくれて、今は辛いと思いますが、避難することや命を守ることが大事だということなど、いろいろな経験を皆と語ってください。そして、青森で仲間と青春してください。

将来の夢は何ですか。

発言者5

今は薬剤師になることを希望しています。

知事

薬剤師さんもすごく感謝される仕事です。試験もありますが、将来の夢に向かって、友達の分も頑張ってください。

発言者6（1年 男子）

私は、料理をすることも、食べることも好きなので、将来は調理師になることを志しています。青森県の特産物である、りんごや長芋を使用した料理を作り、青森県の食材の素晴らしさを皆で味わったりしてほしいと思っています。

しかし近年、不景気が続き、人々が外へ出なくなり、外食をする機会が減ってきていると思います。親に調理師になりたいと話したところ、飲食業の厳しさを告げられ反対されました。しかし食事は、単に栄養をとるだけではなく、人と人とのコミュニケーションを図る大事な時間であり、外食の機会によっては人間関係がうまくいくこともあるのだと考え、調理師の夢をあきらめたくないと思っています。

そこで新青森駅前の土地に、おしゃれなレストランや、人が集えるような商業施設を作ってはいかがでしょうか。カラオケや、娯楽施設等の遊べるような場所ができれば、外で食事をする機会も増え、県外から来た観光客の皆さんにも県産品を食してもらう機会が増えるのではないのでしょうか。

知事

青森の食材、料理を大好きでいてくれることを嬉しく思います。意外だと思うかもしれませんが、知事になってから、私は自炊をしています。料理はおもしろいですよね。熊谷喜八さんや、ホテルオークラの総料理長さんなど、全国の有名な料理人の方は、青森にはいい食材がたくさんあるので、いろいろな料理を作ってみたくなると言ってくれます。青森は世界の一流シェフがうなりたくなる食材の王国です。青森の人は、例えばホタテはそのまま醤油をかけて刺身で食べるとおいしいと言っていますが、ちょっとソテーしたりして一工夫すると、ホタテの別のおいしさが味わえます。食べることはすごく幸せにつながることで、青森の食材を使っていろいろな食べ方、いろいろな料理を作れるシェフを目指してくれたら嬉しいです。

新青森駅前の話がありましたが、皆さんが新青森駅を通学で使ってくれているからこそ感じているのだと思います。青森市では新青森駅をすごく大事にしている、どのような形で青森のイメージを伴ったまちづくりをするかということを考えているようです。旅行客にしてみれば、駅に行った時に、食べるところが駅の1階にあるけれど、近くにレストランもあればいいと思うかもしれません。今、そのような意見がたくさん寄せられてきているので、我々としても、駅前がもう少し元気になってほしいと思っています。

東青地域県民局長

青森市は全国の30万都市で一番雪が多く降るところです。青森市としては、この新青森駅の周辺を、乱開発されないようにいろいろな規制をして区画整理をし、景観の美しいまち、そして雪に強いまちにしようとしています。

盛岡駅の西口もいろいろな施設が建ち始めていますが、そこに至るまで実は十数年もか

かっています。新青森駅の場合も、今は、頑張ってくださいと言いつつ、もう少し見守ってあげた方がいいのかなと思っています。いずれにしても、皆さんが言うように、私も新青森駅周辺には県内のおいしい食べものを売ってくれるお店やホテルなどが建って、賑やかな場所になってくれればいいと思っています。その時には県としても応援することになると思います。そのためには、新青森駅が賑やかな場所になるよう、皆さんも一生懸命応援していただければと思います。

知事

新青森駅を賑やかにしようという、皆さんの気持ちがあれば大丈夫です。
一番得意な料理、メニューは何ですか。

発言者 6

目玉焼きです。

知事

オムレツと目玉焼き、これは料理の基本中の基本です。夢に向かって頑張ってください。

◆知事所感◆

知事

今日は各学年2人ずつと意見交換をさせていただきましたが、皆さんが自分の故郷をそれぞれの立場で良くしたい、そのためにはどうしたらいいだろう、そのようなことを考えてくれている、思ってくれている。そのことを大変嬉しく思いました。

皆さんが育った故郷青森に対するそれぞれの責任は何か。それは、もっと青森を知ること、もっと青森を好きになること、そして青森のために何かできることを行動することだと思います。そして、皆さんにおかれましては、いい人生を過ごすとともに、輝ける未来に向かって歩いていってください。

本当にありがとうございました。



◆知事退場◆

青西ねぶた、申吾ちゃんねぶた、お囃子隊による「かっぱれ佞武多」演奏で見送り。

